

# 子どもの知覚環境と遊び行動

——人文主義的地理学からのアプローチ——

寺本 潔

- 一 知覚環境論と子どもの生活世界
- 二 手描き地図の分析と子どもの空間行動  
(愛知県小原村の場合)
- 三 子どもの遊び場の三世代変化  
(名古屋市中川区下之二色町の場合)
- 四 子どもの知覚環境研究の課題

## 論文要旨

子どもの知覚環境を実際のフィールドにおいて調査するといろいろなことがわかってくる。子どもは、日常の遊びや自然物との関わりあいの中で独特な自然認識や空間の知覚を行っている。本研究では、農村の事例として愛知県小原村を、都市部の事例として名古屋市中川区を選び、子どもの遊び行動と知覚空間の変化を実証的に調べてみた。

調査方法として採用したのは、子ども自身に地域の手描き地図を描かせる方法と子どもやその親への聞き取りを採用した。子どもに地図を描かせると知覚空間の構造の一部が把握でき、また聞き取りによって、詳細な行動実態がつかめてくる。

調査を行った結果、子どもの知覚空間の範囲は小原村の場合、村内の地形を反映し、浅い谷ごとに閉じられていることがわかった。また、名古屋市の場合、都市化の状況や子どもを取り巻く様々な社会的要因の影響を受けて、変化しつつあり、とりわけ三世代の遊び行動の差異は著しいものがあつた。子どもの知覚環境研究の課題は、依然極めて多く、子ども史的観点からの追究も残された課題となっている。本研究は、未だ子どもの内的世界を描いた点では素描にすぎず、今後、地理学のみならず、歴史学や民俗学などの隣接学問からのアプローチも期待される。